

“おもしろくて ためになる 学びの共有”^{わかちあい}

秋田県教育カウンセラー協会機関誌

教育カウンセラー あきた

第26号

2018年（平成30年）7月8日発行

國分康孝先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます

（秋田県教育カウンセラー協会）

NPO日本教育カウンセラー協会会長 國分康孝先生が平成30年
4月19日にご逝去されました。（享年87歳）
心よりご冥福を申し上げます。

★國分康孝先生と秋田県教育カウンセラー協会★

2001年にNPO日本教育カウンセラー協会会長の國分康孝先生（参加者数201名）、
2002年に現・早稲田大学 教育・総合科学学術院教授の河村茂雄先生（参加者数
91名）をお招きして教育カウンセリング公開講演会を開催し、いずれも大好評
裡に終了いたしました。

そして、2003年4月19日に、満を持して日本教育カウンセラー協会秋田県支部
が設立されました。

秋田支部の養成講座に何度も足を運ばれご講義いただいております。質問にも
きさくに明解に答えて下さいました。

謹んで先生のご逝去を悼み、生前の温かいご指導に対しまして深くお礼申し上げ
ます。

秋田での講義を振り返りますと國分先生は、
2001年公開講演会、さらに2003年から
2005年まで毎年、國分久子先生とともに養成
講座でご講義いただきました。

そして、2011年S G E入門ワークショップ
は、國分康孝先生、國分久子先生、そして本部役
員である片野智治先生、吉田隆江先生、秋田県支
部事務局阿部千春先生で盛会に開催されました。



お伝えしきれないほどの 感謝の気持ちをこめて

秋田県教育カウンセラー協会
事務局長 阿部 千春

國分康孝先生のご訃報に接し、あまりにも突然のことで受け止めるまでに長い時間がかかってしまいました。

1999年3月に大学院を修了し、今後の自分の生き方、あり方を模索していた時に出会ったのがSGEとQ-Uでした。2000年8月にSGEワークショップ（リーダー：藤川 章先生）に参加させていただき、國分両先生の温かいまなざしに見守られながら“person to person”で3日間かかわれたことは、感情をあまり表に出さなかった当時の私にとってかけがえのない貴重な体験となりました。私がまとめたSGEに関するレポートに國分康孝先生と片野智治先生が加筆修正されまして、2003年に冊子「SGEリーダーの常識」になった際には、SGEの根幹をしっかりと伝えたいと身の引き締まる思いになったことを覚えております。

國分康孝先生、そして村主英典氏（図書文化社 前社長）には、自分の力だけではどうにもならない時などにご相談させていただいておりました。常に温かくも俯瞰的に中立的に把握しご助言をくださったこと、人としての生き方、あり方の肝要な指針、道標をお示しいただいたことにただただ感謝の念に堪えません。

2003年に秋田県支部の事務局長を拝命いたしました。折にふれて、國分先生からは「マネジメントはなかなかむづかしいものですが全体的に harmony がありました。おかげさまで心おきなく講義に全力投球できました」など心から嬉しく、励みとなるフィードバックをいただきました。それが事務局長としても、一人の人間としても、大きな心の支えになっておりました。國分先生のご意志を受け継がせていただき、今後も参加された方にとって面白くて意味があり（meaningful）、役に立つ（useful）教育カウンセリングの事業を展開できるように努めてまいります。

これまでいただいたお言葉一つ一つに國分先生の確たる哲学を改めて感じております。偉大な心の師（great mentor）であり、常に supportive であった先生に出会えたことに深く感謝しつつ、心よりご冥福をお祈り申し上げます。合掌



國分先生へ 感謝をこめて

秋田県教育カウンセラー協会
理事 佐藤 さゆり

國分康孝先生、今ここにある私を作ってくださっていることに心より感謝します。

先生、私は國分先生が大好きです。なぜならば、先生は私にとっての「歩く説得力」モデルだからです。学会や養成講座など、どんな場面での問いに対しても、明快に答えられるあのかっこよさを、私は今でも忘れません。相手が知りたがっていること、見えそうでいてまだ形にならずもやもやしていることに対して「なるほど！」と、霧がはれていく体験を与えているように私には見えました。そのお姿を通して、これが「明確化」であることを示された気がしています。向き合う相手に「なるほど！」の感覚を開くことは、相手が自分の力で自分の人生を選択し、一歩前へ歩むための最高の後押しであると学びました。「説得力ある自分をめざす」という目標をいただき、本当に幸せです。大きな説得力ある存在で私たちの前に立ってくださったあの日の國分先生のように、私も自分の人生を歩んでいきます。

先生、私は國分先生が大好きです。なぜならば、ゆるがない You are O.K. を贈ってくださったからです。社会人になって間もないころ、片野智治先生のご縁により、國分先生ご夫妻の前で適応指導教室の実践についてお話させていただく機会をいただきました。不登校のこと、出会えた大切な子どもたちとのワンネスの温度を語り終えた私に、先生と久子先生がたくさん O.K. を贈ってくださったことを私は一生忘れません。今、出会う子どもたちに対して惜しめない You are O.K. を届けることができる自分がいるのは、まちがいなくあの日の先生からの You are O.K. です。先生からいただいたこの心の温度は、これからも私の人生を豊かに歩ませてくれるものと思います。

國分康孝先生、たくさんの光を注いでくださり、本当にありがとうございました。



園児のすてきなアイコンタクト

～幼児期からの
ソーシャルスキルトレーニング～

アイコンタクト…学級で SGE のウォーミングアップに行うと子どもの表情が明るくなり場も和みます。「目と目が合わない」「目と目を合わせるのが難しい」など時として話題に上ることもあるアイコンタクト。

でも、生まれたわが子を胸に抱いて温かいまなざしを注がないお母さんはいるでしょうか。ほとんどのお母さんは生まれたわが子を抱き慈愛に満ちたまなざしで見つめることでしょう。アイコンタクトは、他者と人間関係を作っていく上で大切な非言語コミュニケーションツールです。



この間、園児の豊かなコミュニケーション力に出会いすてきな時間を過ごさせてもらいました。それは茶室で園児とおけいこをした時のことでした。

6月初め、こども園の年長さんが茶室に30人やってきます。老人ホーム訪問前のおけいこ。高齢者に一碗のお茶を勧め喜んでいただくのと1か月前に茶室に来て茶道の雰囲気を感じながら練習です。私は退職しておりますが茶道の世界ではまだまだ若手？で先生役を頼まれました。

園児は①正座でのおじぎ②おかしとお茶のいただき方③おかしとお茶のすすめ方を練習します。

いつもと違う空間なのでしょう。ほどよい緊張感があるのか、見てやってみる、友達を見て真似てみるなど、幼くても45分間の5、6歳の学習能力に感心しました。

とはいえ、お茶碗を落とさないように歩くこと・座ることに集中しているので「お茶をどうぞ」というあいさつの時には、もう茶碗が手元を離れている安堵感からか声はへなへな。師匠が「おいしそうな声じゃないわね。もう一回。」と激励するとクス

クスと園児も苦笑い。私は、声を出してもあらぬ方を見ていたらちょっと残念と思い、「じゃ、お友達の間を見て笑顔でおいしいよという気持ちで…」「いただく人はお友達の間を見て笑顔で『いただきます。』とお礼を…」と言いました。

アイコンタクトをすると本当に目がきらきら輝き初め、声をかけ合った後はうまくいったとばかりにみんなうれしそうに笑い、自然に拍手をし合っているのです。心地よかったですね。目と目で話す受容の関係を肌で感じている…。すでに学習し獲得しているツールだからこそうまくいったことが分かる。それはまた、園児が家族・先生方との温かなアイコンタクトの中で育ってきたことに他なりません。(来年のおけいこは温かいアイコンタクトの SST (ソーシャルスキルトレーニング) から始めましょうか?)

ホームのお年寄りも園児が来るのをそれはそれは楽しみにしています。通院の予定をキャンセルしてまで待つ方もいるそうです。初め無表情に見えた方も、園児が帰るときには廊下から玄関までの見送りの列に並び笑顔で見送るので、すごいパワーを園児からもらうのでしょうか。若返ってます!?



7月本番。私は裏方でお茶を点てる役。ふれあいの様子は見られませんが、園児はきっと温かなまなざしでおもてなしをがんばることでしょう。

幼児期からの予防的・開発的カウンセリングや STT の実施、小幼の連絡でなく連携の必要性を感じました。そして、この協会で学んだことを想起し生かせる場に居合わせたことに感謝します。

(秋田県教育カウンセラー協会
理事 木村 優子)

～哀悼～ 國分康孝先生のご著書に思いをよせて



國分康孝先生の著書からはカウンセリングだけでなく、生き方やものの考え方について多くの学びを得ることができます。先生の著書の中からベストのものを紹介するなら、私は「範は陸幼にあり—真の人間教育とは—」（1997 講談社）を挙げます。

この本は國分先生が14歳の頃に陸軍幼年学校（陸幼）で体験したことを教育学や心理学の理論で整理・説明したものです。國分先生の行動原理は、まさに陸幼での生活経験が源になっているのではないかと思います。私の心に残っている一節を紹介します。

「（陸幼での教育は）ひとことで言うと対処行動（coping behavior）の教育である。対処行動とはある状況におかれたとき（例＝けんか、無断欠勤、抵抗）どうするかである。これをふだんから考えておかないといざというときに行動が決められない。・・・私利私欲を後回しにする対処行動をどのように教育したか。私の体験は二つある。一つは折にふれ私心を斬った対処行動を見聞することである。これは模倣の対象になるからである。・・・陸幼には指導者にも上級生にもそういう模倣の対象が多くあったと思う。私心を斬る教育の第二の方法として、折にふれての説法を挙げておきたい。説法とは指導者や上級生の自己開示のことである。」私たちが、生徒の前に立つ上で最も大切なことが、戦中の陸幼で実践されてきたことに驚きを感じました。陸幼の教官たちは体罰を行うことは決してなかったといえます。生徒一人一人を大事にする姿勢が教官たちの行動によって感じ取ることができます。國分先生の級友の実家が空襲で全焼したとき、その級友は担任の先生にそのことを報告に行ったそうです。そのとき、担任の先生は、級友に、國分先生の家は大丈夫だったのかと尋ねたそうです。クラスメートが言うには國分先生の住所を担任の先生は覚えていたことになります。國分先生は、担任の先生は、自分をその他大勢の生徒としてとどらえてはいなかったことを感じ取りました。私は生徒一人一人を大切にしているということをとっさの行動（言動）で示すことが重要だと思いました。言葉と行動が一致していなければならないことを改めて大切だと思いました。

何度も読み返してみても、人を生かし、育てる教育の在り方について新たな気がうまれる本だと思います。残念ながら、この本は出版元では品切れとなっています。再版され、より多くの人に読んでいただけたらと思っています。

（秋田県教育カウンセラー協会理事 佐藤健吉）

編・集・後・記

今年も半年たったがさまざまな事件が起こった。スポーツマンシップからかけ離れた日大アメフト部の事件からは、監督、コーチという絶対的な立場の人間に翻弄される人間の悲しさを感じた。日大の元監督の記者会見を見ると、この人は自分の過ちに本当に気づかないのだろうか、と疑ってしまう。本当に気づかないとすれば、なぜそんなことになってしまうのか、が大きな問題であると思う。監督は教育者であり、部活動の勝利もさることながら、学生を正しく導くのが仕事のはずである。その大前提が失われてしまうということは周りに指導してくれる人も、アドバイスをくれる友だちも、注意を促す同僚もいなかったということかもしれない。身の回りをイエスマンで固めてしまうとなんかそんなことが起こるのではないだろうか。私たちはこれを一つの反面教師としてみることもできる。私たちは仲間を大切にし、周りの言葉に耳を傾け、生徒を正しく教え導くように取り組まなくてはならないと思う。教育カウンセリングの世界にいる自分はずっといい仲間がいることを誇りに思い、勇気を持って教育活動を行っていいことを嬉しく思う。Y